

自然



町の木 もくせい



町の花 さくら

町の位置及び地質・気象

大口町は愛知県の西北部にあり、犬山扇状地の東南部に位置する「木の葉」の形をした町域のまちです。東西約3.6キロメートル、南北約6.1キロメートル、総面積は13.61平方キロメートル。海拔40メートルから海拔15メートルのゆるい傾斜になっており、地質は木曾川からの土砂の堆積による沖積層をなし、耕作に適したものとなっています。

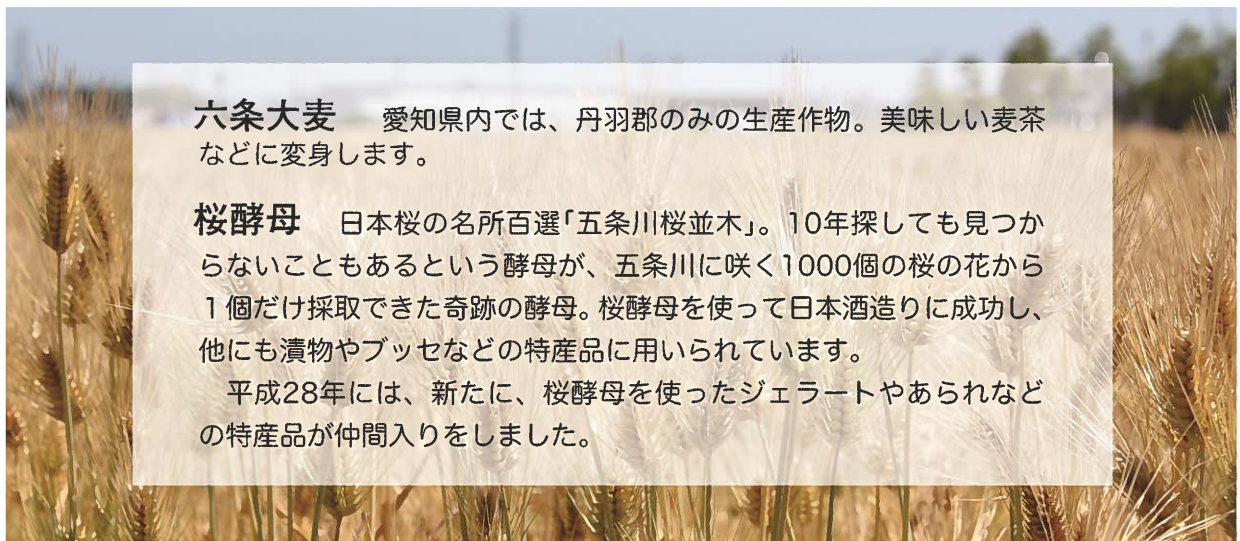
大口町は、年間を通じて比較的温暖で降雨量も適量といえます。しかし、冬場は冷たく乾いた北西風「伊吹おろし」が吹くため、気温以上の寒さを体感します。



作物・特産品



1. 桜酵母五条川桜おおくち 2. ジェラート（麦茶・桜） 3. 酒粕ブッセ おおくち酒浪漫 4. 麦茶五条川 5. 奈良漬
6. 桜口サブレ 7. さくらあられ・麦茶あられ 8. 山姫五穀サブレ
1・3・5・6・8は、ふるさと寄附の返礼品としても活用しています。



六条大麦 愛知県内では、丹羽郡のみの生産作物。美味しい麦茶などに変身します。

桜酵母 日本桜の名所百選「五条川桜並木」。10年探しても見つからないこともあるという酵母が、五条川に咲く1000個の桜の花から1個だけ採取できた奇跡の酵母。桜酵母を使って日本酒造りに成功し、他にも漬物やブッセなどの特産品に用いられています。

平成28年には、新たに、桜酵母を使ったジェラートやあられなどの特産品が仲間入りをしました。

町の沿革

明治22年10月の町村制により、富成村、小口村、太田村の3か村ができました。明治28年に小口村の余野地区が柏森村（現扶桑町柏森）に合併されましたが、明治39年には、富成村、小口村、太田村の3か村と、柏森村の一部であった余野が合併し、現在の大口町の基礎である大口村が誕生しました。

昭和37年4月には、大口村から大口町になりました。

産業では純農村だった町が、昭和30年代から始まった企業誘致策により、現在では、約670社の企業が立地し多くの方が働くまでに発展をしています。

※ 令和元年度 法人町民税均等割納税義務者数